

教育実習Ⅶ（幼）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 講師 牧 亮 太

1 はじめに

幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする学生を対象とした「教育実習Ⅶ（幼）」は、学生が初めて保育の現場に触れる授業である。その目的は、幼稚園教育の実際に触れて保育を理解すること、教職への意欲を高めることである。

2 授業のスケジュール

| 項目 | 時期 | 主な内容 |
|--------------------|------|--|
| オリエンテーション （第1回） | 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・教育実習Ⅶの位置づけ ・実習園の紹介 |
| 実習A （第2～4回） | 4～5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習Aの準備 （実習に関わる諸連絡、WS①の説明） ・実習A （観察中心） ・実習Aの振り返り （1日の流れの確認、気づき・疑問点について討議、WS②の説明） |
| 実習B （第5～9回） | 5～6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習Bの準備 （目標の設定、WS③の説明、日誌の書き方） ・実習B ・実習Bの振り返り （エピソードの発表・選定、学びのまとめ（WS④）、実習Cの目標の設定） |
| 実習C （第10～14回） | 6～7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習Cの準備 （日誌の書き方、お礼状、WS⑤の説明） ・実習C ・実習Cの振り返り （エピソードの発表・選定、学びのまとめ（WS⑥）） |
| 報告会 （第15回） | 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード・学びの発表・質疑応答 |

ワークシート (5) 実習Cで出会ったエピソード

学生番号: _____ 名前: _____ グループ: 第1組 第2組

| | | | |
|--|---|---|---|
| 実習日 | 7月1日 水曜日 | 実習クラス | |
| <p>【実習中の目標】</p> <p>●クラス (子ども理解・子どもへの関わり方・保育実践) ・保育者が子どもの名前や、思いを分かち合えて、どうやって関われば、子どもにどのような関わりが出来るか考える。</p> <p>●園人 (子ども理解・子どもへの関わり方・保育実践) ・3回見てきた中で「わがまま」園児に合った関わりをする。</p> | | | |
| <p>※ 何を観察したいのか(課題)、どうやって観察するのか(方法)がわかるように *「〜」を記して、観察する。」「〜」を記して、観察する。など、「観察する」は「知る」「学ぶ」などでOK</p> | | | |
| <p>観察した目標について得た事象的エピソードをまとめてみよう</p> | | | |
| ①子どもの活動・様子・やりとり | ①子どもの気持ち | ②保育者の気持ち・意図 | ③自分の気持ち |
| ①5月の実習時、朝の準備中に次の行動が「わがまま」ベンチに寄りかかっていたら、Mちゃん。今回観察しているところから見て、借りた絵本を床に置いて、「これどくらにあげる」と聞いてきた。 | ①前回は行動が「わがまま」に決まっていたが、園児の中には他人に寄りかかってくることに慣れてきたり、この10月の17日までは「わがまま」の行動が少なかった。 | ①どうしたらいいかわからない。 | ①前回は自分のことを話さなかったのに、今回は話した。 |
| ②私自身もその絵本をどこに置くかわからないので、先生に聞いてみるように声をかけた。 | ②どうしたらいいかわからない。 | ②前回は自分のことを話さなかったのに、今回は話した。 | ②前回は自分のことを話さなかったのに、今回は話した。 |
| ③今現在、子どもたちの中には、自分の意思を周りに表現することや、自分の意見を周りに伝えることが出来るようになってきた。 | ③今現在、子どもたちの中には、自分の意思を周りに表現することや、自分の意見を周りに伝えることが出来るようになってきた。 | ③今現在、子どもたちの中には、自分の意思を周りに表現することや、自分の意見を周りに伝えることが出来るようになってきた。 | ③今現在、子どもたちの中には、自分の意思を周りに表現することや、自分の意見を周りに伝えることが出来るようになってきた。 |

| | |
|---|---|
| ①子どもの活動・様子・やりとり | ①子どもの気持ち |
| ②保育者の気持ち・意図 | ②保育者の気持ち・意図 |
| ③自分の気持ち | ③自分の気持ち |
| ②年少児の保育の時間に「隠れて」いた。保育者は目を吹きながら、運動を促していた。 | ②目を遮るために「大きな声」で「わがまま」を叫んでいた。 |
| ③年少児は、まだ「集中力」が、低く、物事に集中し、よく見ると、大きな声で叫ぶことが多く、保育者のために「目線」が、保育者から離れていくことが多かった。 | ③目を遮るために「大きな声」で「わがまま」を叫んでいた。 |
| ④今現在、子どもたちの中には、自分の意思を周りに表現することや、自分の意見を周りに伝えることが出来るようになってきた。 | ④今現在、子どもたちの中には、自分の意思を周りに表現することや、自分の意見を周りに伝えることが出来るようになってきた。 |

図2. 実習Cでのエピソードをまとめるために使用したWS⑤

(2) 教育実習Ⅶを通して学んだこと (学生の報告書より抜粋)

- ・「保育者自身が楽しめば子どもに伝わり、一緒に楽しむことができる」「自分が笑顔で子どもの目線に立つことで、最初あまり近寄ってくれなかった子ども声をかけてくれたので、笑顔を大切にしていきたいと思った」
- ・「子どもの成長が早くて非常に驚いた」「一カ月ごとの実習で毎回大きく成長した子どもたちに驚きが隠せなかった」
- ・「興味から遊びに発展したり、遊びから興味を抱くということもあることを学んだ」
- ・「日誌の書き方を学んでいくことで、子どもたちの行動には意味があるんだということを思い始めた」
- ・「子ども達の前に立つことで、(中略)きらきらした表情を見て、もっときらきらした表情を見たいなという気持ちが思い浮かんできたことを今でも覚えています。私自身が思っていたよりも、子どもに楽しくしてほしいという気持ちが大きいことに気付きました」
- ・「子どもが今どういう状況でどのような気持ちであるのかを完全にわからないまでも理解しようとする姿勢に変わってきたように思う」
- ・「子どもたちと過ごす時間はとても楽しかった。改めて保育者になりたいと思ったし、色々な園の様子を見てみたいと思った」
- ・「保育には一つの正解はなく、終わりもなく、常にどうしたらもっと良くなるかという最善を求め続けることができるやりがいのある仕事だと思った」
- ・「疑問に思ったことはすぐにその場でメモを残していくなど、課題として残っている」

4 成果と課題

前年度までは9月に5日間の参加・観察実習を行っていたが、今年度より4月、5月6、7月に1回ずつの参加・観察実習に変更した。およそ1か月ごとに実習を行うことで、子どもの成長する姿に驚くとともに、発達する子どもたちとかかわることができる保育職に対する魅力が一層高まったようであった。また、「準備・実習・振り返り」という一連の流れを3回行うことで、実習だけでなく、事前学修、事後学修を行うことでさらに学びが深まることを体験的に理解できたものと思われる。

一方で授業スケジュールの大幅な変更により、日誌の書き方の指導には課題が残った。従来は前期期間中に書き方の指導を約4コマ分行い、さらに5日間の実習で毎日書くことで、実践的に日誌の書き方を身につけることできていた。しかし、今年度は日誌の指導に充てることができたのが約3コマ分しかなかったことに加え、実際に書いたのは実習Bと実習Cの2回のみであった。日誌を書くことの経験不足が今後の実習にどのような影響を与えるのかを検証するとともに、その不足分をいかに保障していくのが当面の最重要課題である。